

第 45 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 28 年 5 月 26 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会 場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール(仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1)

テーマ：「熊本地震 1 年後報告」

1. 16:30～16:35（発表 5 分）

趣旨説明：森口周二（緊急調査ワーキンググループ）

2. 16:35～16:50（発表 15 分）

タイトル：被害地域の地震動と地盤震動特性

話題提供者：大野 晋（災害リスク研究部門 地域地震災害研究分野）

概要：熊本地震で観測された地震動の特性についてまとめるとともに、被災地域で行った地盤の常時微動測定などに基づき、被災地域の地盤振動特性について報告する。被害地域の揺れに地盤増幅が大きく寄与していることは明らかである一方、広域のハザードマップで使われている地盤増幅率とは必ずしも対応していない。地盤増幅率マップの空間分解能を高め、周期特性を把握することが事前対策や直後の被害把握の面からも必要である。

3. 16:50～17:05（発表 15 分）

タイトル：地震後の医療・保健

話題提供者：富田 博秋（災害医学研究部門 災害精神医学分野）

概要：熊本地震発災直後より、DMAT、日本赤十字病院等を中心とする災害医療救援、DPAT による災害メンタルヘルス救援活動が行われ、また、学会や各種団体も様々な支援活動を行った。熊本地震から 1 年が経過し、熊本こころのケアセンターが立ち上がるなど、中長期の復旧・復興と医療保健支援が進んできている。今後、東日本大震災における取り組みの中で培った経験、知識、教訓を熊本に伝え、また、熊本と連携しながら、災害医療対応のあり方の検証を行うこと等が望まれる。

4. 17:05～17:20（発表 15 分）

タイトル：被災者行動パターンの被災・回復過程

話題提供者：奥村 誠（人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野）・山口 裕通（日本学術振興会特別研究員）・金田 穂高（株式会社ゼンリンデータコム）・土生 恭祐（株式会社ゼンリンデータコム）

概要：携帯電話位置情報は、大量の人々の位置情報を高頻度かつ継続的に取得しており、災害時の被災・行動状況をこれまでとは異なった視点から把握できる。ここでは、混雑統計①データを用いて平成 28 年熊本地震時の都市機能・人々の生活行動パターンの変化と回復状況を量的に把握した結果を報告する。今後のリアルタイムデータ提供体制の構築により、外部からの支援物資の量や支援内容の検討に活用できる可能性がある。

5. 17:20～17:35 (発表 15分)

タイトル：**NPOのボランティア支援活動**

話題提供者：**保田 真理** (地震津波リスク評価 (東京海上日動) 寄附研究分野)

概要：今後も災害の多発が懸念される我が国において、平常時の連携が重要となってくる。行政と支援団体等の役割分担、それに基づく訓練などを通してお互いの信頼関係を構築しておく必要がある。NPO法人の課題として、活動資金に困る現状がある。今後は地元企業とも連携して、必要な資機材を貸与できるような仕組みを作ることや、フォローアップ講座を通じて会員のスキルアップの継続や専門のスキルを持った人材の参加も望まれる。また、支援体制をコーディネートできる人材の育成も大きな課題である。被災地に支援を受け取る受援力が無ければ、復旧に向けての活動がスムーズには動き出さない。地方自治体や社会福祉協議会、研究機関、NPO法人は支援に必要なスキルアップを続けると共に、協働して受援力を向上させるための仕組みや連携関係を日頃から構築して行く必要がある。

6. 17:35～17:50 (発表 15分)

タイトル：**企業の被害と事業継続**

話題提供者：**寅屋敷 哲也** (人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)

概要：熊本地震による企業被害と各企業が実施した事業継続及び復旧の取組について、被災企業のホームページからの公表資料、報道記事等から情報を収集・整理し、さらに、3回にわたる主な被災企業の現地ヒアリング調査を実施した。これらを踏まえて、東日本大震災の教訓を活かした事前の備えの有効性、熊本地震による自動車産業その他の製造業、食品、流通、ICT事業者等の応急及び事業継続・復旧の対応について分析・評価を行った。

7. 17:50～18:05 (発表 15分)

タイトル：**応急仮設住宅と住宅復興**

話題提供者：**岩田 司** (地域・都市再生研究部門 都市再生計画技術分野)

概要：熊本地震においては4、300戸程度の応急仮設住宅が建設され、プレハブの他、将来の復興住宅も視野に入れた木造も多数建設されている。一方見なし仮設も12,000戸程度供給されているが、供給不足に対応した補修型みなし応急仮設住宅も活用されている。これらの今回の仮設住宅の供給や被災者の要望等の特色を概括し、過去の災害における経験等も踏まえ、大規模災害時における住宅復興手法に関し考察する。

8. 18:05～18:30 全体討論

司会・進行：**森口周二** (緊急調査ワーキンググループ)

参考：「平成28年熊本地震に関する報告書 (平成29年4月発行)」

http://irides.tohoku.ac.jp/topics_disaster/2016kumamoto-eq.html